

第171回 関西広域連合委員会

日時：令和6年10月24日（木）

場所：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場 B1階

イベントホール

開会 11時25分

○三日月広域連合長 改めまして、皆さん、おはようございます。

まもなく阪神・淡路大震災から30年という、そういう節目を迎えますが、能登半島地震を教訓にしながら災害に負けないこの関西広域連合をつくっていくということも淡路島で皆でまた考えていきたいなというふうに思っております。

それでは、第171回関西広域連合委員会を開催いたします。本日は兵庫県淡路島で開催しております。開催地の兵庫県副知事、服部副委員から御挨拶をいただきたいと思います。

○服部副委員 失礼いたします。副委員の兵庫県、服部でございます。現下の状況でございますので、誠に僭越でございますが、私より開催地を代表して一言御挨拶を申し上げます。

本日は三日月広域連合長をはじめ、構成府県市、また連携県の皆様におかれましては、ここ兵庫県淡路島へお越しいただき、心より歓迎を申し上げます。ここ淡路夢舞台は、関空の造成時に埋立用の土砂を採取した跡地に立地してございます。失われた緑を再生することで、人と自然の共生を目指した世界でも類を見ない環境創造プロジェクトと言えます。先ほど連合長より御紹介がありましたとおり、2025年、来年は阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えます。この夢舞台でございますが、震災からの創造的復興のシンボルの1つとして2000年に完成いたしました。また同年、淡路花博と呼んでおります「国際園芸・造園博ジャパンフローラ2000」というものが開催されたところです。来年3月20日からはその理念を継承し、花博開催25周年を記念した

「花みどりフェア2025」が開催されます。皆様にはぜひ足をお運びいただければ幸いです。

この国際会議場を含みます夢舞台の建築群は、世界的建築家の安藤忠雄氏の設計であります。トレードマークのコンクリート打ちっ放しのデザインが随所に見られまして、素材の効果と自然光を活用し、シンプルながらも力強い空間をつくり出しております。午後からの近畿ブロック知事会議の中では、視察コースにも組み込んでおりますので、現代建築と自然の融合を御堪能いただければ幸いです。

それでは、いつもとは趣の異なった場所、空間での本日の連合委員会が有意義なものとなりますことを祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○三日月広域連合長 服部副知事はじめ兵庫県の皆さん、大変お世話になりました。またお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題を進めます。まずはじめに、「大阪・関西万博 関西パビリオンの取組状況について」を議題とし、この議題は大阪・関西万博 関西パビリオン企画委員会として開催することとなります。福井県の杉本知事、三重県の服部副知事にも御参加いただきます。

それでは、本部事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局 関西パビリオンにつきましては、昨日午後に建物の内覧会を行ったところでございます。広域連合長、副広域連合長、そして志田副委員にお越しいただき、多くの報道陣にもお越しをいただいたところです。まだ今は空っぽの建物でございます。展示物が揃う来年2月が、PRの勝負どころかというように考えておりますが、まずは本日、前回もお示ししましたレーザー測量で捉えました我がパビリオンの立体像を御覧いただこうと考えております。これは10月中旬に数時間の計測をしまして、数日の動画調整ででき上がったものでございます。パビリオン完成時には全てを直ちに計測をした上で、WEBパビリオン上で大きく公開をしようと考えているとこ

ろでございます。まずは、今の工事状況について画面を御覧いただきたいと存じます。よろしく申し上げます。

ちょうどこれがメインエントランスから入っていく状況でございます。真ん中の床の黒いものはノイズでございます、除去ができていないというだけでございます。今は白い平面になっております。今このように360度の枠を作っておりますが、ここにLEDパネルを貼り付け、全府県の観光情報を流していこうと考えています。これから空中に向けていきますと、ちょうど左の横の辺りも含めまして、バックヤード棟も少し見えてまいります。この3階の建物がバックヤードとなっております。ちょうど目の前にリングがございます。このリングのおかげで昼間の暑い時間帯に日陰ができますので、我々にとってはよい環境になったかと、考えています。

以上が現状でございます。今後本部としましては、各府県展示への支援を全力でやっていきたいと考えておりますし、併せて先ほど申し上げましたエントランスエリア、それからセンターサークルの部分での映像、それから多目的エリアの空きの時間帯での展示について尽力をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○三日月広域連合長　　昨日は大阪府市のヘルスケアパビリオンのイベントに併せて関西パビリオンの内覧会も開催させていただきました。今事務局から説明のあった状況のとおり、準備が進んできているということでございますので、何か皆様方で御意見や御質問はございますでしょうか。

それでは、このような内容をそれぞれ確認しながら、具体、また府県の準備も入っていくことになりますので、その内容の準備と同時に、その発信、機運の醸成に努めていくということと、もちろんその途中においては経費の削減もしっかりと図りながら進めていくということにしたいと思えます。

では、内容を御確認いただいたということで、次の議題に移ります。「令和7年度国の予算編成等に対する提案（案）について」を議題とし、まず本部事務局から説明

をお願いいたします。

○本部事務局　資料2を御覧ください。国の予算編成等に対する提案につきまして、本年6月に提案書を取りまとめ、提案活動を実施したところでございます。「1提案の趣旨」の11月提案項目の基準といたしまして、6月に実施した提案項目から概算要求に反映された項目、特に重要な制度等の創設の項目、その他新たに提案を行う必要がある項目の3つの基準により取りまとめをいたしました。

2の「提案項目の構成」につきましては、6月提案と変更はございません。

3の「今後のスケジュール」は、委員会で御協議いただいた内容を取りまとめ、11月中をめどに提案活動を行っていきたいと思います。また、資料右下に参考といたしまして、第33次地方制度調査会答申に示されました、関西広域連合と国とが協議により調整を行う新たな枠組みの設置に向けた提案の中で、防災庁の創設に関しても、重点提案として、広域連合長等による提案の実施を調整しているところでございます。

2ページから4ページにつきましては、全提案項目を細目までを記載した一覧となり、そのうち新たに提案する項目といたしましては、項目の前に「新規」、また6月以降の情勢を踏まえ、提案文を修正する項目は、該当する項目に「提案文修正」と記載しております。

具体的な新規項目と修正内容は、5ページから15ページにまとめております。そして、該当部分に下線を引いております。新規項目は、今回3項目ございます。まず7ページ、「質の高い教員確保のための施策の推進」といたしまして、小・中学校教員の配置拡充、処遇改善やそのための財政措置等を、また10ページに、「能登半島地震を踏まえた災害対策」として、これまでの広域連合による支援を通じて必要性が明らかになった具体的な項目、最後に14ページに「実効的な農地制度の維持、推進のための支援」といたしまして、必要な農地の確保のため農地貸借の中心となる農地中間管理機構の財政支援等について提案するものでございます。

説明は以上でございます。

○三日月広域連合長　毎年度6月と、そして秋と、国への政策提案要望をさせていただいております。大きな項目は分権型社会のテーマと、広域的課題解決と、その他ということで、それぞれ詳細は大部にわたりますので、資料のとおり御確認をいただきたいと思いますが、幾つか新規の項目も入れた形で提案をしようとしているものがございます。何か皆様方で御意見・御質問はございますでしょうか。

○平井委員　今日は服部副知事、兵庫県で本当にすばらしい機会をつくっていただきありがとうございます。また近畿ブロック知事会も含めて、大変お世話になります。私はちょっと午後東京に行かなきゃいけない事情が急に入りまして、失礼いたしますけれども、よろしく願いを申し上げたいと思います。

ここ淡路は、阪神・淡路大震災の震源で、野島断層もこの山の向こう側にあるわけですが、私は実は家内の父も母も淡路でございまして、この辺はお墓参りに来るところでございます。そんな意味で大変すばらしいロケーションになったなと思いますが、阿久悠さんが五色の御出身でありまして、「人は皆悩みの中あの鐘を鳴らすのはあなた」と、難しいことを言っているわけではなくて、和田アキ子さんの歌ですけど、そういう気分でこれからの新しい時代をつくっていくという意味では、いいところになったなというふうに思います。そういう意味で、今ちょうど選挙が行われていて、兵庫県の選挙も当然あるのですけども、全国で総選挙も行われていることを、ぜひ11月の要望なので、もう一度よく見直していただくことが必要じゃないかと思います。具体的に、多分一番ポイントになるのは、2番の地方創生のところです。デジタル田園都市国家構想などがそのまま書いてあったり、デジタルで地方創生をするというイメージで書いてあるのですが、実はもう既に現在の政府の中では、デジタル田園都市国家構想の部局すら消えているのですね。選挙の後どういう政権の枠組みになるか分かりません。ですから今日決めることではなくて、新しい政治の枠組みの中で我々が特に大事だと思っている東京一極集中をどういうふうに打開していくのか、あるいはそうした地域づくりというのを応援していくのか、人や企業や大学などの分散

とかはどうしても必要だと思うのですが、そういうことをどうするか、少子化をどうするかという焦眉の課題を多分再構成してくると思います。ですからそれにふさわしい関西広域連合の要望に今一度ちょっと見直した上で、11月に提出したほうがいいのではないかなということです。よろしくお願いします。

○三日月広域連合長      ありがとうございます。大変重要な御提議で、実は総選挙の結果を受けた要望の見直しというのは当然必要だと思っていましたし、また重点化や、特出しをしてしかるべき方に伝えるという機動性も重要だと思いましたので、そのあたりのことについては調整をしていきたいと思います。

そういう意味で結果を見た見直し、また必要であれば追加もやっていきたいと思いますので、また事務的にも御相談、お諮りいたしますので、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。特に防災庁創設に関しては、少し出して、そしてきっちりと届けるといふこともしていきたいと思います。

それ以外にないようでしたら、この議題を以上、御確認いただいたということで、続いて、報告事項に入ります。「海外観光プロモーションについて」、こちらは西脇副広域連合長からお願いします。

○西脇副広域連合長      シンガポールでの観光プロモーションの実施について御報告いたします。資料3でございます。11月13、14日に、私が団長として、シンガポールでトッププロモーションを実施します。私のほかには、構成府県市、近畿運輸局、博覧会協会、関西観光本部、関西エアポート、そして日本旅行業協会の関西支部にも参加をいただく予定でございます。シンガポールというのは7割以上の方が訪日旅行経験があるという、リピーターが中心の成熟市場なので、政府機関、観光関連団体、航空会社等の意見交換を通じまして、大阪・関西万博への来場と、関西地域への周遊観光をPRしたいと思っております。またシンガポールは、アジアや世界のビジネスハブであり、日系企業もたくさん進出しておりますので、そうしたところにも万博に合わせてインセンティブ旅行や、視察旅行をしていただけるようにも呼びかけたいと思

っております。よろしくお願いします。

以上です。

○三日月広域連合長      この内容について、何か御意見や御質問はございますでしょうか。

○後藤田委員      ちょっと教えてもらいたいのですけども、観光といたら必ず物産がセットというのは、ロッセさんがいい例でありますけれども、我が国のいろいろなベンチャー企業も旅行会社が物を売るというのは当たり前になっているのですけど、今回は物産はやはり一緒にならない整理でありますか。

○西脇副広域連合長      観光プロモーションの場合、特に去年、今年は万博を意識しております、どちらかという、来てもらうということと周遊観光が中心になっていきますので、現地でのいわゆる関西の物販のところまでは時間的にもなかなか手を出しにくいです。ただし、向こうでやるイベントなどで、一部そういうものを紹介するようなコーナーが、向こうのバリエーションの中で行われることがあるのですが、主眼はどちらかという、特に今年は万博を意識した来場と周遊観光に主なターゲットを絞っています。人数など枠組みの中で物産をやることとなると、かなり大がかりな準備も必要なので、今回は物産をメインのテーマにはしていないのですが、そこはまた別途考えたいと思います。

○後藤田委員      ありがとうございます。今後でいいのですが、関西広域で常設とか、何かそういったことも含めてというのは。パリで実は長野県佐久市さんに言われて一緒に常設のブースをやったりしているので、そういったところもぜひ関西広域で、京都さんを中心にメジャーなので、一緒に我々も物産・観光のそういう拠点をシンガポールにつくれたら今後はいいいのかなと。やはり1県だけだとなかなか物産もそろわなかったり、観光もそろわなかったりするから、やはりここは万博が終わってやれやれじゃなくて、もうここから勝負だと思うので、そういったこともぜひ皆さん、一緒に共有できればと思います。

○三日月広域連合長      ありがとうございます。今回は観光プロモーション重点メインで行くということでございますが、今後に向けてそういった物産も含めて、皆でプロモーションをする活動をどのようにつくっていくのかということについても検討していきたいと思います。

それ以外、何かございますでしょうか、よろしいですか。では、この内容で実施していただくということについて御確認をいただきました。

次に、「カーボンニュートラル研究成果事業化促進フォーラム」と、「産業技術支援フェア i n K A N S A I 2024」、こちらは広域産業振興局から御説明をお願いいたします。

○広域産業振興局      資料4を御覧ください。「カーボンニュートラル研究成果事業化促進フォーラム」の開催について御報告及び周知のお願いでございます。広域産業振興局では、関西が高い産業ポテンシャルを有しますグリーン分野におきまして、今後の市場拡大や関連ビジネスの創出が期待されます水素、燃料電池、蓄電池等のカーボンニュートラルにつきまして、広域連合域内の大学や研究機関等が最新の研究成果を紹介するとともに、域内企業とのマッチングを促進するフォーラムを開催いたします。時は令和6年12月9日、月曜日の午後でございます。大阪工業大学の梅田のキャンパス、O I T梅田タワーで開催いたします。なおウェブでも同時配信を行いまして、会場に来られない企業の方々も成果発表を聞けるようにいたしております。

当日のプログラムといたしましては、まず特別講演として、大阪ガス株式会社エネルギー技術研究所エグゼクティブフェローの大塚浩文氏から、「都市ガスのカーボンニュートラル化に向けたガス業界と大阪ガスの挑戦」と題して御講演をいただきます。その後、大学や研究機関の研究者の方から6件の研究成果発表を予定しております。そして発表終了後には、研究者と参加者のマッチングの場となる交流会も開催する予定でございます。現在申込受付中ございまして、11月29日まで受付けをしておりますので、構成府県市におかれましては、企業等への御周知をよろしくお願いしたいと

思います。なお、本事業は、関西広域連合が11月、12月と展開いたしますKANSAI脱炭素monthsの関連イベントとして、一体的にPRしていくものでございます。

次ページ以降に案内チラシをお付けしておりますので、講演の発表内容、それぞれの概要について、また参考に御覧いただければと思います。

続きまして、資料5を御覧いただきたいと思います。「産業技術支援フェア in KANSAI 2024」の開催についてでございます。広域産業振興局では、産業技術に関する関西のものづくり企業のニーズと公的研究機関のシーズのこの2つの両方のマッチング等を図るために、国の産業技術総合研究所と大阪産業技術研究所、また大阪産業局、そして関西の経済団体等との共催で「産業技術支援フェア in KANSAI 2024」を開催いたします。開催日は11月15日の金曜日でございます。大阪市内にございます、大阪産業創造館にて域内等の12の公設研究機関等が一堂に会しまして、各機関の研究シーズや研究成果、また活動について紹介していきます。今年度のテーマは、「ものづくり×いのち輝く未来社会のデザイン」と、万博との親和性を持たせておりまして、カーボンニュートラル、情報・DX、バイオエコノミー、健康・ウェルネス、ものづくり力向上の5つのカテゴリで最新技術のパネル展示と講演会、ミニシンポジウム等を実施いたします。これも会場だけではなく、オンラインでもパネル展示や講演を視聴できるハイブリッド形式での実施となっております。申込方法や問合せ等につきましては、次ページにお付けしておりますチラシに記載しております。技術課題の解決や自社技術の拡張、そしてネットワークの拡大をお考えの企業、また、経営支援機関をはじめとする関係機関の皆様に御参加いただきたいと考えておりますので、構成府県市におかれましては、御周知をよろしくお願いしたいと存じます。

以上でございます。

○三日月広域連合長      今説明のあった内容に何か御意見・御質問はございますか。

後段のフェアは越前和紙ですとか、京都の酵母とか、そういったものもシーズとし

て御紹介されるようですので、様々な掛け合わせにつながるように、またそれぞれの府県市で周知・広報方、よろしくお願いいたします。

ないようでしたら次の議題、「広域計画等の計画期間の見直しについて」を議題といたします。本部事務局から御説明をお願いします。

○本部事務局　資料6を御覧ください。関西広域連合広域計画は、現在第5期になります。第1期から第5期まで3年間の計画期間で改定を重ねてまいりましたが、昨年9月に開催された第25回関西広域連合協議会で示されました提言に、計画策定にはもっと長期的な展望に立った視点が必要であって、現在の計画期間3年は短いとの提言がございました。これを受けて、計画期間を見直すことについて検討をしてまいりました。一方、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく関西創生戦略は、国の戦略の計画期間に合わせて、計画期間を5年間としております。これらを踏まえて、次期第6期広域計画の計画期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とし、関西創生戦略については、現行の第2期関西創生戦略が本来は令和6年度で計画期間を終了するところ、1年間延長しまして、計画期間を広域計画と合わせることにしたいと考えております。これにより、資料の中ほどにありますとおり、広域計画と創生戦略の双方が、令和8年度から5年間の計画期間となり、施策や方針の一貫性が図られることとなります。なお、この計画期間の見直し案につきましては、今年3月に開催しました、令和5年度第2回広域計画等推進委員会において提案し、御協議いただいた結果、御了承いただいております。また先日、10月19日には、関西広域連合議会の総務常任委員会で御説明したところ、特に御異議等はありませんでしたので、今後次期第6期広域計画の策定について本格化させてまいりますが、この5年という計画期間の枠組みの中で取り組む内容等を検討してまいりたいと考えております。

今後の予定は資料のとおりですが、進捗状況につきましては、適宜御報告を行ってまいります。

事務局からの説明は以上でございます。

○三日月広域連合長      この内容も既にこの間、議論してきた内容でございますので、特に御異論、御意見等もないと思いますので、さよう御確認いただきたいと存じます。

続きまして、「令和6年度北陸新幹線の建設促進に係る取組について」ということで、こちらまず事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局      資料7を御覧ください。令和6年度北陸新幹線の建設促進総決起大会及び中央要請を開催いたします。例年秋に関西主体で実施しておりますが、敦賀・大阪間の認可・着工に向けて重要な年でもあり、今年度については北陸新幹線建設促進同盟会と合同で実施することにしております。例年より規模も拡大して実施していく予定でございます。11月14日、大会は11時から、ザ・キャピトルホテル東急で開催いたします。主な来賓は現在調整中になっております。同日午後からは、与党関係省庁を訪問し、要請活動を行います。なお、要請先については現在調整中となっております。なお、本日10月24日14時に報道資料を提供させていただく予定にしております。

説明は以上でございます。

○三日月広域連合長      今日は福井県の杉本知事もお越しいただいておりますが、北陸新幹線が敦賀まで開業し、大変なにぎわいを見せていらっしゃると思いますが、一日も早く京都や大阪につなげていく、ネットワークを結んでいくという、こういうことのために大変重要な年になっておりますので、今説明のあった内容のとおり、様々な取組を行っていかうということでございますが、何か御意見・御質問等はございますでしょうか。

○杉本知事      今回こうして皆様方に東京で決起大会をやっていただけるということで、私は北陸新幹線建設促進同盟会の沿線自治体の会長もさせていただいておりますので、積極的に参加し一緒にやらせていただければと思っております。一方で、今言われているように政権の枠組みによっては非常に厳しい状況になるということも考えられるわけでございます。いずれにいたしましても、必要な経費であったり、工期、それからまた沿線の工法によってはいろいろな不安を抱いていらっしゃるかと、

それから地方負担のところが多額になるのではないかと、こういったことが幾つも言われておりますので、国に対しても丁寧な説明であったりとか、しっかりとその内容について国としての国土強靱化のために、地方費の負担をいかに減らしていくか、こういった議論をやっていただく、さらには財源をどうやって確保するのか、さらにそのB/C、費用対効果、それがどうなっていくのか、こういった議論もしっかりと国にやっていただけるように、そういったことも国に併せて申し上げていかなければいけないというふうには考えております。

○三日月広域連合長　　今おっしゃったことに尽きると思いますが、どうぞ後藤田委員。

○後藤田委員　　北陸新幹線、フロンランナーとして関西を中心とする全国に波及する一つの成功事例として頑張っていたきたいと思います。同時に我々関西は、中国地方、四国とも結節点となっておりまして、報告であります、8月には四国4県で、東京で、四国新幹線整備促進期成会が今まで以上の規模で開かれて、今までと違うのは四国が一つになりました。ルートとして岡山ルートということで、初めて今まで四国は一つ一つだったのですが、四国は一つということで、その御報告です。

そして、10月15日、先週我が県で中四国サミットをさせていただきました。その際にも、国への要望の中に、中国・四国地方における新幹線の整備計画への早期格上げに向けた調査を実施するための予算措置を明記させていただいておりますので、我々中・四国も北陸の成功事例をしっかりと学んで、前に進めていければと思います。

以上です。

○三日月広域連合長　　ありがとうございます。

北陸新幹線、大変重要な時期に来ているということでございますが、なお、様々残る課題等につきまして、丁寧に説明をしながら前に進めていくということと併せて、中・四国に向けたネットワークを進めていくためにも、北陸新幹線をしっかりと進めていこうということでございます。

このような内容で進めていくについて、御確認をいただいたものといたします。

次に、資料 8、「関西広域連合と国が協議により調整を行う枠組みの設置に向けた提言について」を議題といたしますが、この内容、先般も御議論いただきまして、内容については連合長一任をいただきましたので、そちらに記載のとおり、内容を修正いただきまして国に届けていくと。ただ、総選挙が行われましたので、まず今週、第 1 陣の郵送をした上で、来月にできるだけ早くしかるべき方にお届けできるように準備や調整をしたいということでございますので、この点、ぜひ御確認いただきたいと思いますのですが、何か御意見等はございますでしょうか、よろしいですか。

その次、資料 9 につきましては、「関西広域連合議会の臨時会の開催」ということでございまして、こちらは来月 11 月 21 日に記載のとおり、開催されますので、よろしく御準備、また御参加いただきますようによろしくお願いいたします。

予定された議題は以上でございまして、2 点の資料配布につきましては、中間評価ということで、それぞれ内容を御確認いただければと存じます。

以上で、予定した議題は全て終了となりますが、何かそれ以外、また皆様方で御意見等はございますでしょうか、よろしゅうございますか。

ないようでしたら、第 171 回関西広域連合委員会を終了いたします。

ありがとうございました。

○本部事務局     それでは続きまして、記者会見に移らせていただきます。

質問をお受けいたしますので、御質問があれば挙手をお願いしたいと思います。御所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。

○読売新聞     読売新聞の大槻と申します。連合長に伺います。

防災庁についてですけれども、現政権、防災庁を 2026 年度末までに設置という、新たに時期を明示して方針を掲げました。こうした点について、改めて関西広域連合としての見解や期待したいところについてお聞かせいただけたらと思います。

○三日月広域連合長     ありがとうございます。この関西広域連合は、まさに阪神・

淡路大震災を乗り越えてきた、東日本大震災でカウンターパート方式で率先して復興支援に取り組んできた、また、能登半島地震についても、その知見を生かしながら取組をしてきたということもございまして、平成28年度以降、この防災、これは事前から復興までの一連の対策を担う組織が必要だということで、防災庁の創設を国に提案してまいりました。ここに来て石破総理が、国としてもその検討準備を進めていこうという方針を示され、現在そういったこともおっしゃりながら総選挙をされているというふうに思っておりますので、ぜひそういったことが叶うように、具体進むように期待をしたいと思いますし、広域連合からも力強く声を上げながら全国的な機運の醸成に努めていきたいなというふうに思っているところです。なお、どこに置くんだということについて言えば、ぜひこの関西、西日本に拠点設けるべきではないかというようなことについても併せて申し上げてまいりたいというふうに思います。

以上です。

○読売新聞　西日本、関西の拠点設置というところで、やはり今後南海トラフ地震であったり、首都直下であったり、そういう巨大災害に向けて、いわゆるバックアップですね、そういったところが重要かと思うのですけれども、そういうバックアップを設ける意義というか、改めてそちらもお聞かせいただけますか。

○三日月広域連合長　バックアップという観点も重要ですが、我々は双眼構造という形で東京だけではなくて、産業の面、文化の面、様々な機能を持っているこの関西というところの強みをより強化して、国を牽引できるように担っていこうということを申し上げておりますので、そういう視点から申し上げていきたいというふうに思っております。

○読売新聞　分かりました。そういう西日本、関西の防災庁の拠点、まだ検討、たとえば設置をするとしたらどれぐらいの規模でとか、どれぐらいの人数でとか、そのあたりの念頭であったりとかはないですかね。

○三日月広域連合長　まだそこは具体を詰めて想定できているわけではございませ

んが、国の動きなんかも見ながら、どういう御提案ができるのかということを検討していきたいというふうに思います。

○読売新聞      ありがとうございます。改めて政権に対して、防災庁以外にもおっしゃった国土の双眼構造であったりとか、政府機関移転とか、結構今の政権は今までに比べたらそのあたりはかなり重点的に主張しているのかなとも思いますが、そこへの期待感ですね、関西広域連合としての期待感を改めてお聞かせください。

○三日月広域連合長      大いにありますよ。地方創生、最初に手がけられた石破さんが総理大臣になられ、そして防災のことについても、防災庁の設置も含めて訴えられているわけですから、この点は関西広域連合としても期待したい、また一緒にやっていきたいというふうに思います。ゆえに政権がグラグラすることがないように、国民の支持が得られるのかどうかということも併せて注視していきたいと思います。

○読売新聞      ありがとうございます。

最後に一点、一部やはり防災庁について、今の内閣府防災のいわゆる予算を増やしたりとか、そこの人員増だけでいいのではないかというふうな意見もあるのですけれども、改めて防災庁として独立した組織を設けることの意義というか、そちらも最後にお聞かせいただけますか。

○三日月広域連合長      恐らくここにいるメンバーは皆感じていることだと思いますけれども、いざ事が起こったときの動きの重要性ですね。それぞれの部署がそれぞれで動くということも大事ですけれども、やはり常にそのことに備えて動ける体制をつくっておくということの重要性というのを再認識しておりますので、それぞれがいざというときに寄せ集めでということではない、事前から、そして発災直後、復興に責任を持って対処できる組織をつくるということは、私は必要だと思っております。総理もそういった趣旨でおっしゃっていると思いますので、当然つくる段階というのはあるのかもしれませんが、そういったものを目指した動きを私たちは強く期待したいと思います。

○読売新聞      ありがとうございます。

○本部事務局      ではこれで、記者会見を終わります。

どうもありがとうございました。

閉会   1 2 時 0 3 分